

付篇 常呂実習施設 平成 18 年度 (2006 年度) の活動記録

(1) 活動の概要

本年度は 4 月 1 日付で熊木俊朗（前・北見市教育委員会文化財課ところ遺跡の森副主幹）が助教授に、福田正宏（前・日本学術振興会特別研究員 PD）が助手に就任し、新たな組織体制がスタートした。昨年度末で定年退職した宇田川洋・前教授は東京大学名誉教授として札幌で研究活動を継続すると共に、札幌市内で居酒屋「ゆかり」を 6 月に開店して第二の人生をスタートさせた。山田哲・前助手は熊木の後任として北見市教育委員会文化財課ところ遺跡の森学芸員に就任した。なお、福田助手は本年度 3 月 31 日付をもって任期満了で退任している。

主な研究活動としては、福田が代表となって科学研究費「極東ロシアにおける新石器時代から鉄器時代への移行過程に関する考古学的研究」の交付を受けたほか、考古学研究室の大貫静夫教授を代表とする科学研究費「サハリン中世遺跡のデータベース作成」に熊木・福田が分担者として加わった。この二つの科研を軸としてサハリンやハバロフスクでの調査研究を実施し、その成果として常呂実習施設研究報告第 3 集『極東ロシアにおける新石器時代から鉄器時代への移行過程に関する考古学的研究』（本書）を刊行した。平成 17（2005）年度に刊行を開始した本研究報告もシリーズ 3 冊目となったが、今後も年 1 冊ペースで刊行を継続していきたいと考えている。

夏の発掘調査実習である「野外考古学Ⅱ」では、平成 15（2003）年度より調査継続中のトコロチャシ跡遺跡史跡整備事業に伴う発掘調査を、北見市教育委員会と連携しながら今年度も実施した。平成 16（2004）年度より始まった博物館学実習 A・B は、今年度で 3 度目の開講となったが、カリキュラムの内容や実施体制も安定し、当施設の新たな教育活動として軌道に乗りつつある。平成 12（2000）年に第 1 回が開講された文学部ところ公開講座は今年度で 10 回目の開催を迎えた。平成 18（2006）年 3 月に常呂町は北見市・端野町・留辺蘂町と合併し新たな「北見市」が誕生したが、今回の公開講座はその記念として北見市市民会館でも開講された。幸い会場が満員となる盛況で、地域に根ざした活動を継続してきた当施設が新市とも協力関係を築いてゆくための力強い一歩を踏み出すことができた。

平成 18（2006）年は、昭和 32（1957）年に東京大学文学部が初めて常呂町で発掘調査を開始してから 50 年目にあたる節目の年であった。来年度には、この半世紀にわたる歩みを総括し未来を展望するための記念行事を開催すべく準備中である。

(2) 実習

野外考古学Ⅱ

開講期間	平成 18 年 8 月 20 日～9 月 4 日
調査遺跡	トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点 (史跡常呂遺跡) A～D トレンチ
受講者等	学部生 7 名・大学院生 5 名 (TA2 名を含む)・当施設教員 2 名・考古学研究室教員 3 名・北見市教育委員会 2 名・その他研究者 2 名・見学者 7 名

博物館学実習 A

開講期間	平成 18 年 7 月 23 日～7 月 31 日 (8 月 1 日朝解散)
実習内容	資料陳列館展示替え・常呂町郷土資料館 (富丘区) 展示作成・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 10 名・大学院生 2 名 (TA 1 名を含む)

博物館学実習 B

開講期間	平成 18 年 9 月 5 日～9 月 13 日 (9 月 14 日朝解散)
実習内容	資料陳列館展示替え・考古資料整理の方法・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 7 名

(3) 調査研究活動

① 研究助成金 (下線は当施設教員, 以下同じ)

平成 18 年度 (～平成 19 年度) 科学研究費補助金 特定領域研究 [公募研究]

「サハリン中世遺跡のデータベース作成」(課題番号: 18024002)

研究代表者: 大貫静夫 研究分担者: 佐藤宏之, 熊木俊朗, 福田正宏

(平成 16 年度～) 平成 18 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (B) (2)

「北海道における古代から近世の遺跡の暦年代」(課題番号: 16300288)

研究代表者: 白杵 勲 研究分担者: 鶴丸俊明, 加藤博文, 坂本 稔, 高瀬克範, 熊木俊朗,

研究協力者: 福田正宏, 出穂雅実, 小田寛貴

平成 18 年度 科学研究費補助金 若手研究 [スタートアップ]

「極東ロシアにおける新石器時代から鉄器時代への移行過程に関する考古学的研究」(課題番号: 18820010)

研究代表者: 福田正宏, 研究協力者: 熊木俊朗

平成 18 年度 (～平成 19 年度) 科学研究費補助金 特定領域研究 [公募研究]

「北東アジアにおける中世考古学情報ネットワークの構築」(課題番号: 18024001)

研究代表者: 加藤博文 研究分担者: 徐 光輝, Mark Hudson, 福田正宏

平成 18 年度 財団法人福武学術文化振興財団 福武学術文化振興団研究助成

「下北半島における初期農耕集落の考古学的研究」

研究代表者：高瀬克範 研究分担者：福田正宏，品川欣也，國木田大

② 主な調査

サハリン州コルサコフ地区 セディフ1遺跡 発掘調査（サハリン国立大学との共同調査）

調査期間：平成18年6月18日～6月25日

参加者：熊木俊朗，福田正宏，井出靖夫

網走市史跡最寄貝塚 整理作業（依頼業務 於：当施設）

依頼期間：平成18年7月1日～平成19年3月31日

参加者：熊木俊朗，福田正宏，榊田朋広，高瀬光永，笹田朋孝，高橋 健，宇田川洋

トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点 史跡整備事業に伴う発掘調査

調査期間等：前掲のとおり

サハリン州コルサコフ地区 セディフ1遺跡 遺物整理作業（於：サハリン国立大学）

調査期間：平成19年1月14日～21日

参加者：熊木俊朗，宇田川洋，榊田朋広，森 岬子

北東アジアにおける中世考古学情報ネットワーク構築に向けた調査（於：サハリン国立大学）

調査期間：平成19年1月14日～21日

参加者：福田正宏

ハバロフスク州郷土誌博物館 資料調査

調査期間：平成19年2月19日～2月23日

参加者：福田正宏，熊木俊朗

③ 教員による発表論文等

（熊木関連分）

・著書・論文・調査報告等

2006年6月 熊木俊朗「多彩な青銅製装飾品」『発掘された日本列島2006 新発見考古速報』朝日新聞社，71頁。

2007年2月 熊木俊朗「サハリン出土オホーツク土器の編年 - 伊東信雄氏編年の再検討を中心に -」『北東アジア交流史研究』塙書房，173-199頁。

2007年2月 熊木俊朗「オホーツク海北西岸・アムール河口部・サハリンの土器編年図」『北東アジア交流史研究』塙書房，536-538頁。

2007年3月 熊木俊朗「4. 北海道東北部の年代測定結果とその検討」『北海道における古代から近世の遺跡の暦年代 研究成果報告書』札幌学院大学人文学部，34-38頁。

2007年3月 白杵 勲・熊木俊朗・高瀬克範「8. 北海道における続縄文～アイヌ期諸文化の暦年代

の想定」『北海道における古代から近世の遺跡の暦年代 研究成果報告書』札幌学院大学人文学部, 48-54 頁。

・口頭発表

2006 年 5 月 熊木俊朗, A. ワシレフスキー, 前川 要, 佐藤宏之, 大貫静夫, 白杵 勲, 福田正宏, 笹田朋孝, 根岸 洋「サハリン南部セディフ 1 遺跡の大型竪穴群について」『日本考古学協会第 72 回総会研究発表要旨』日本考古学協会, 233-236 頁, 東京学芸大学。

2006 年 11 月 熊木俊朗「オホーツク土器と擦文土器の出会いーまったく異なる系統の出会いと融合ー」『公開研究発表会 異系統土器の出会いー土器研究の新しい可能性をもとめてー 発表要旨』「異系統土器の出会い」研究班, 11-19 頁, 東京大学。

2007 年 1 月 熊木俊朗「北東アジアからみた北海道先史文化の位置」第 42 回応用物理学会北海道支部学術講演会特別講演, 北見工業大学。

2007 年 2 月 A. ワシレフスキー, V. デリューギン, 熊木俊朗, 福田正宏, 大貫静夫, 井出靖夫「サハリン州コルサコフ地区「セディフ 1 遺跡」の調査研究」『第 8 回北アジア調査研究報告会発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会, 11-14 頁。

(福田関連分)

・著書・論文・調査報告等

2006 年 5 月 福田正宏「北海道 続縄文・擦文・オホーツク文化以降」『考古学ジャーナル』No.544, 152-155 頁。

2007 年 3 月 福田正宏『極東ロシアの先史文化と北海道 紀元前 1 千年紀の考古学』北海道出版企画センター。

2007 年 3 月 福田正宏・I. Shevkomud・高橋 健・S. Kositsyna・M. Gorshkov・木山克彦「5. アムール河口域の年代測定結果とその検討」『北海道における古代から近世の遺跡の暦年代 研究成果報告書』札幌学院大学人文学部, 39-43 頁。

2007 年 3 月 福田正宏「6. サハリンの年代測定値」『北海道における古代から近世の遺跡の暦年代 研究成果報告書』札幌学院大学人文学部, 44 頁。

・口頭発表

2006 年 5 月 熊木俊朗, A. ワシレフスキー, 前川 要, 佐藤宏之, 大貫静夫, 白杵 勲, 福田正宏, 笹田朋孝, 根岸 洋「サハリン南部セディフ 1 遺跡の大型竪穴群について」『日本考古学協会第 72 回総会研究発表要旨』日本考古学協会, 233-236 頁, 東京学芸大学。

2006 年 6 月 福田正宏「ワークショップ I 東アジア世界からみたオホーツク文化研究の展望」『生き物文化誌学会第 4 回学術大会』生き物文化誌学会, 東京農業大学生物産業学部。

2006 年 8 月 福田正宏「異文化交流地帯としての間宮海峡周辺ー先史時代のアムール流域 - サハリン - 北海道についてー」『第 14 回環オホーツク海文化のつどい』北の文化シンポジウム実行

委員会，紋別市文化会館。

2007年2月 A. ワシレフスキー，V. デリューギン，熊木俊朗，福田正宏，大貫静夫，井出靖夫「サハリン州コルサコフ地区「セディフ1遺跡」の調査研究」『第8回北アジア調査研究報告会発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会，11-14頁。

(4) 教育普及活動

文学部ところ公開講座

開講日時 平成18年12月8日 (① 13:45～，② 18:30～)

プログラム等 ①常呂講座 (会場：常呂高等学校体育館)

テーマ「生と死を考える -21世紀 COE プログラム「死生学」への招待-

第1講「現代日本人の死生観」(講師：島菌 進 東京大学大学院人文社会系研究科教授)

第2講「死について考える」(講師：関根清三 東京大学大学院人文社会系研究科教授)

②北見講座 (会場：北見市民会館小ホール)

テーマ「生と死を考える -21世紀 COE プログラム「死生学」への招待-

第1講「現代日本人の死生観と霊性」(講師：島菌 進 東京大学大学院人文社会系研究科教授)

第2講「老いと死について考える」(講師：関根清三 東京大学大学院人文社会系研究科教授)

東大関係出席者： 島菌 進・関根清三・高橋和久 (人文社会系研究科長)・大貫静夫・熊木俊朗・福田正宏・石川薫 (文学部事務長) ほか文学部事務室職員2名

非常勤講師・委員委嘱等

(熊木関連分)

北見市文化財審議委員会委員 (平成18年4月1日～平成20年3月4日)

北見市常呂自治区社会教育推進会議委員 (平成18年4月1日～平成20年3月31日)

北見市史跡整備専門委員 (平成18年度)

常呂まちづくり協議会委員 (平成18年6月14日～平成20年6月13日)

北見市民憲章制定委員会委員 (平成18年9月29日～平成20年3月5日)

(福田関連分)

北海道教育大学札幌校 非常勤講師

(5) 実習施設利用状況

① 研究者の主な受入状況(本学考古学研究室教員・学生・大学院生による研究は除く)

平成18年5月 I. Ya. Shevkomud (ハバロフスク州郷土誌博物館・科学調査部門長)「日本列島北部の更新世/完新世移行期における居住形態と文化形成に関する研究」(科学研究費による共同研究)

平成18年7月 白杵 勲(札幌学院大学人文学部・教授)「常呂町内遺跡の研究資料収集」

平成18年7月 出穂雅実(札幌市埋蔵文化財センター・文化財調査員)「常呂町域の遺跡分布調査」

平成18年8~9月 田口洋美(東北芸術工科大学・教授)・岸本誠司(東北芸術工科大学・講師)

ほか4名「常呂町周辺における民俗調査」

平成18年9月 小池文人(横浜国立大学大学院環境情報研究院・助教授)ほか2名「常呂町周辺における植物の種特性とシカ嗜好性調査」

② 学生宿舎稼働状況(実習含む 単位:宿泊者1人あたり宿泊数の和)

4月:0	5月:8	6月:6	7月:104	8月:149	9月:194
10月:0	11月:19	12月:9	1月:5	2月:28	3月:25
合計:547					

③ 北海文化研究常呂資料陳列館入館者数(入館者名簿に基づく人数)

4月:6	5月:48	6月:21	7月:51	8月:53	9月:70
10月:13	11月:11	12月:2	1月:4	2月:1	3月:19
合計:299名					

④ 資料貸出等

「発掘された日本列島2006 新発見考古速報展」(文化庁ほか)

栄浦第二遺跡出土青銅製帯金具ほか1点・写真2点(貸出)

「知床の自然環境と人びと」企画展(北海道大学大学院文学研究科現代GP・斜里町立知床博物館)

ヒグマ現生標本一式(貸出)

「北の台所事情」企画展(北海道立北方民族博物館)

トコロチャシ跡遺跡出土木製杓子ほか3点・写真4点(貸出)

展示パネル用画像(知床国立公園・羅臼ビジターセンター新館)

モヨロ貝塚7号竪穴骨塚画像1点(画像提供)

⑤ その他

資料借用 北海道天塩川口遺跡出土の考古資料（収納箱番号1：枝番号1～29）（所蔵機関：北海道教育大学札幌校）

（6）組織

（北海文化研究常呂実習施設）

北海文化研究常呂実習施設長 高橋和久（併任 研究科長・学部長）

北海文化研究常呂実習施設運営委員会 委員6名（委員長・副委員長各1名，委員4名）

助教授 熊木俊朗

助手 福田正宏

有期雇用職員 2名

（北海文化研究常呂資料陳列館）

館長 高橋和久（併任 研究科長・学部長）

（文責：熊木俊朗）

東京大学常呂実習施設研究報告 第3集

極東ロシアにおける新石器時代から鉄器時代への
移行過程に関する考古学的研究

2007年3月31日

編集 熊木俊朗・福田正宏

発行 東京大学大学院人文社会系研究科

附属北海文化研究常呂実習施設

北海道北見市常呂町栄浦 384
